交換留学報告書 – メルボルン大学

工学系研究科システム創成学専攻 2 年
鈴木祐美香

1. 派遣先大学概要

   メルボルン大学は QS World University Ranking (2019)で世界 32 位、オーストラリア国内ではトップに位置する、世界の権威ある大学の一つ。1853 年に設立され、オーストラリアで二番目に歴史が長いです。アジアを中心として留学生が多く、女性学生比率も半分を超えており、大学としてリベラルな空気感が強いように思います。

2. 留学準備

   - 学内選考

     事前準備としてまず TOEFL iBT か IELTS を受験する必要があり、私は自身の語学力を知るために両方 B4 の 7 月頃に受験しました。工学系研究科のプログラムではなく全学交換留学プログラムに応募したため、11 月と 12 月に一回ずつ面接がありました。学内選考を通過した後は留学先大学に申請をし、正式なオファーが来たのは 4 月頃でした。

   - 奨学金

     JASSO の奨学金を毎月 7 万円受け取ることが出来ました。申請の手続きは特に急ぐ必要もなく簡単でした。当初は別の奨学金(トビタテ)に申請することを考えていましたが、気付いた時には時期を過ぎていたため取りやめました。奨学金によっては早めに応募の準備をすることをお勧めします。

   - その他

     留学が決定した後、ビザや保険の申請、住居とフライトの手配、受講科目の選択などを行いました。保険は東大で必要とされる学研付帯海外留学保険以外に現地の保険(Bupa)に加入することを求められます。この保険はメルボルン大学を通して加入するのですが、大学側の手続きにミスがあり申請期間が実際の留学期間よりも短くなるというトラブルがありました。ビザ申請の上で保険が留学期間中カバーされている必要がある為、保険の手続きをし直したところビザの取得がギリギリになってしまいかなり焦りました。こういったトラブルも起こりう

る為、重要な申請についての情報は細かく確認し、出来るだけ早めに始めるといいと思います。
また受講科目の選択について、交換留学生は基本的にどの学科の科目も取ることができますが、科目によっては指定されたメルボルン大学の講義を事前に履修している必要があります。この指定された講義は過去に東京大学で受講した講義で代替することが可能ですが、承認されるためには担当者にその講義のシラバスを送付する必要があります。この審査はそれなりに厳しいので注意しましょう。

3. 留学生活
   - 講義
     講義は基本的に 1 セメスターに 4 科目受講します。一科目週 3 時間で、2 時間の講義と 1 時間のワークショップにより構成されています。また週に数時間 consultation hour という講師に直接面会できる時間が設けられており、講義や課題などへの疑問はそこで質問することができます。先生方はとても優しく、私も課題のプログラミングで問題が発生した時に沢山のアドバイスをいただきました。
     私は主に自身の専門に近い IT 系の科目の他に、社会学とアカデミック英語の講義も受講しました。IT 系科目のワークショップでは主にチューターと共にプログラミングの課題に取り組みました。一方社会学のワークショップでは毎週必須のリーディングがあり、その内容を元にチューター主導でクラス内ディスカッションを行いました。大体の文系科目のワークショップはこの形式で行われるようです。
   - 課外活動
     i. 大学主催イベント
        オリエンテーション期間中には新入生のためのイベントが数多く開かれ、中には Speed Friending といった交流イベントもあります。また学期中も現地企業の説明会や、インターンの探し方、CV の書き方について相談に乗ってもらえるイベントなど、様々なキャリアセッションが開かれます。さらに勉強方法やエッセーの書き方など、アカデミックスキルに関連したセミナーも開かれています。
     ii. クラブ活動
        メルボルン大学には 200 以上の大学公認のクラブが存在します。参加費は 5-8 ドルで、セメスター中に開かれる様々なイベ

ントに参加することができます(メンバーでなくとも、イベントごとの参加費を払えば大体参加することができます)。私は Language Exchange Club, Women in Science and Engineering, Coffee Club, Anime and Manga Club に参加しました。このように他の学生と交流する機会は数多くあるので、友人作りには困りませんでした。

iii. インターンシップ

私はビクトリア州政府主催の留学生向け無給インターンシップに参加しました。オーストラリアでインターンシップを見つけるのは簡単ではなく、そのほとんどは PR(永住権保持者)かオーストラリア国民に限定されています。その為お金を稼ぎたい留学生は基本的にパートタイムとしてレストランで働いていました。

iv. その他

メルボルン市内では一年を通してイベントが頻繁に開かれています。メルボルンは移民が多く異文化への理解が進んでいる都市なので、他国の文化を紹介するものも数多くあります。またデモやマーチもよく行われており、私も Pride March と呼ばれる LGBTQ+を支持する人々によるものに参加しました。

4. 留学を振り返って

元々異なる文化や価値観を持つ人と接することで自身の視野を広げることを留学の第一目標としていたのですが、結果として想定以上の成果を得ることが出来ました。現地ではキャリアに対して柔軟な考え方を持つ人が多く、異なる生き方をしてきた方が沢山いました。そういった方々の話を数多く聞くことで、自分も様々な将来の可能性を考えるようになりました。また、異文化や他国の政治に関心の高い学生が多く、日常的にそういった会話をするので、とても楽しく刺激的でした。その為留学の一年間を通して政治や文化についてより関心が高くなり、知識もかなり増えたように思います。留学で得たこのような経験を今後は積極的に生かし、少しでも周囲や社会に良い影響を与えていくと共に、その学びの姿勢は継続していきたいと思います。